

avatarin株式会社

事業名:Withコロナ時代の新たな観光様式”三重リモート観光モデル”の創出

Q.実証事業に応募したきっかけを教えてください。

ク「ミエ」イティブ実証サポート事業において、アバター専用プラットフォーム「avatarin」から、アバターを用いて事業者や個人が自由に経済活動を行うことができる、アバター観光マネタイズの実現の実証、及びコロナ禍における新たな収益化と、アフターコロナを見据えたリアルな観光誘致の実現に繋がりたいと考えました。

Q.三重県で実証して良かった点を教えてください。

観光資源が豊富な三重県のような様々な観光施設に遠隔操作ロボット「newme(ニューミー)」を設置することにより、インターネット環境がある世界中のあらゆる場所から、アバターロボットにアクセスすることができる環境を構築し、アバターによる観光需要創出の可能性を実証することができました。

Q.本事業で何を実証したのか教えてください。また、その結果もあわせて教えてください。

①3箇所ホッピング:三重ホッピング観光

「ミキモト真珠島」「鳥羽水族館」「海の博物館」にアバターを設置し、「豊富な海の資源」というストーリー性でホッピング観光を実施しました。体験者からは3箇所で2,000円(税込)/60分の体験料を頂きました。

②2箇所ホッピング:鳥羽水族館ホッピング観光

鳥羽水族館内の「極地の海」「人魚の海」にアバターを設置し水族館内の2箇所を観光しました。体験者からは2箇所2,000円(税込)/45分頂きました。体験者からはコロナ後に、実際に三重県に行き施設に足を運びたい、とメッセージを頂き、リアルとバーチャルの融合の可能性を見出すことができました。

Q.今後、この実証事業を三重県または全国でどのように展開していくのか教えてください。

来県経験のない観光客にアバターロボットを介して三重県の観光スポットを体験頂き、県の魅力の認知に繋げ、アバターロボットによる訪問を新たな観光チャンネルにすることで、新たな観光収入源を生み出していきたいと思っております。

本事業を通して三重県へのリアルな来県訪問に繋げるwithコロナ社会の様々な分野での利活用が可能となり、このような動きを展開していった未来には、アバターロボットが日常生活を支える一つの要素となり、リアルとバーチャルがうまく融合した新しい社会インフラを持つニューノーマルな都市が創造されることが予想できます。今後は、三重県をモデル都市として世界に展開していきたいと考えています。

<三重県担当職員からひと言>

不要不急の外出制限がされているコロナ禍において、自宅にいながらアバターにより観光等を楽しめるサービスは、時代をとらえた画期的なサービスだと感じています。今後、アバターロボットがさまざまな用途に展開されていく可能性を強く感じました。
(創業支援・ICT推進課 矢形さん)



<実証事業の様子>

